

朝日杯フューチュリティステークス

阪神で行われるようになってからは、ディープインパクト産駒が3勝。

昨年は後のダービー馬ハーツクライ産駒のドウデュースが1着。

ハーツクライ産駒は2019年にもサリオスが圧勝。

ディープインパクト産駒とハーツクライ産駒がどちらも出走していなかった2015年はキングカメハメハ×シーザリオのリオンディーズが1着。

2着のエアスピネルもキングカメハメハ×エアメサイア。

クラシック向きの主流血統の実力馬が出てくれば、順当に結果を出している。

格上の中距離血統馬はパフォーマンスを大きく落としにくいのが阪神芝1600mの特徴。

ただし、適性的に有利なのは芝短距離向きのスピード血統。人気薄で走った馬はダンチヒ系が目立ちます。

2020年7番人気1着のグレナディアガーズは父がデインヒルの影響強いフランケル。母父も米国型。

2019年の勝ち馬サリオスは母母父に入るデインヒルの影響が強い大型馬。

2017年の勝ち馬ダノンプレミアムも母母父デインヒル。

ディープインパクト産駒で当レースを勝ちながら、その後のG1では活躍できなかった2016年の勝ち馬サトノアレも母父デインヒル。

つまりディープ産駒のなかでも短距離指向の血統馬がより走りやすい

ダンチヒ系、特にデインヒルは 2 歳スプリント戦が
トップレベルのオセアニアで主流の血統。

ダンチヒ系が走りやすいレースはPサンデー系や
ノーザンテーストを持つスプリント指向の血統馬も走りやすい。

2019 年 14 番人気 3 着のグランレイは母母父がPサンデー系のフジキセキ。
母父がオセアニアの主流系統フェアリーキング系のファルブラヴ。
ノーザンテーストも持つ馬。

2018 年の勝ち馬アドマイヤマーズはPサンデー系のダイワメジャー産駒。

9 番人気 2 着のクリノガウディーは母父がハイロー系のディアブロ。
ノーザンテーストも持つ馬。

2016 年に 7 番人気 2 着のモンドキャンノは父がPサンデー系のフジキセキ。
母父がノーザンテーストを持つサクラバクシンオー。

12 番人気 3 着のボンセルヴィーソは父がPサンデー系のダイワメジャー。

戦歴の傾向も、人気薄は特に 1400m 指向。
1400m以下で末脚を伸ばす競馬に実績がある馬。

阪神で行われるようになった 2014 年以降、
7 番人気以下で馬券になったのは 7 頭。

このうち 6 頭は芝 1400m を上がり 3 位以内で勝利した実績あり。

本命はダノンタッチダウン。

父ロードカナロアはオーストラリアとほぼ同じ
香港芝 1200mG1 で圧勝した馬。

母父もダンチヒ系のなかでもハシリを持っているため

スケールを強化するダンシリ。

兄のダノンザキッドも朝日杯よりも
もう一段レベルの高い 2 歳 G1 ホープフル S を優勝。

2 歳戦で体力上位。かつ当レースへの適性も兼ね備えた血統馬。

相手本線はフランケル産駒 2 頭。

ダンチヒの影響が強い種牡馬。
産駒は JRA の 2 歳マイル G1 に 3 頭出走して 2 勝。

ティニアは母父ストームバード系のなかでも
最上位種牡馬のジャイアンツコースズウェイ

フランケル×ストームバードにグレナディアガーズ、
モズアスコット。日本適性が特に高い配合。1400m 経験も有利。

レイバリングの血統スケールと適性は
このメンバーのなかでもダノンタッチダウンと互角。

ドルチェモアは母父ディープ。
ルーラーシップで母父ディープは今年の 2 歳戦で
すでに何頭も結果を出している配合。

今年の 2 歳馬の母父リーディングはディープ。
配合父馬はルーラーシップがダントツの勝ち星。
勝利シェアは 20%以上。

狙って配合、育成されていますし、実際相性もいいです。
先週の同コース G1 も同配合のドウアイズが 10 人気で 3 着。

コーパスクリスティの牝系は2歳 G1 にも実績あり、今の馬場にも向きます。